辻川だより

第４０号［2016 冬号］　平成２８年１２月３日発行

発行　辻川区　［辻川公民館］
〒679-2204　福崎町西田原 1227
TEL　0790-22-5763
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www10.plala. or. jp/tujikawa/public_html/

辻川お宝再発見めぐり

区長　釜坂道弘

辻川区では、平成２８年度自律(立)のまちづくり交付金事業の取り組みとして、地域のお宝再発見と調査・研究、情報発信及び人がつながる地域づくり」に取り組んできました。この取り組みの中で『ぶらり辻川界隈』ガイドブックが完成し、地域のみなさまに配布することができました。内容については、辻川商工部会を中心とした「辻川歴史研究会」の調査結果を参考にまとめたものです。このガイドブックが辻川区にある重要な文化財をはじめ地域の歴史などに触れるきっかけをつくり、地域に対する愛着や誇りにつながるものと信じます。

また、１１月６日に開催した『ぶらり辻川界隈』（辻川お宝再発見めぐり）においては、ガイドブックを片手に子どもから年配者まで多数の方に参加していただき、ウォークラリーとゲームで楽しい一日が過ごせました。少し肌寒い一日ではありましたが、地域の歴史にふれ、理解を深めると同時に参加者同士の交流にも役立ったことと思います。関わっていただいた多くの区民の皆様に感謝申し上げます。

8 日 12:30 宵宮少雨の宮入

8 日 14:00 宵宮宮出前に井ノ口と

8 日 7:40 乗り子全員集合

9 日 8:30 今年も旧道を屋台引き

協議員会は今

１０．１１月の協議員会での報告　検討内容を一部紹介します。

① 来年度事業に関して各隣保各種団体から提出された要望検討及び来年度事業計画と予算組みの準備
② 自治会関連費徴収準備
③ 協議員選出方法に関する臨時総会の準備
④「ぶらり辻川界隈」関連事項
⑤ ブロックに関する規約改正
⑥ １１月、フラワーポットの植替え用に葉牡丹８０株

お知らせ

■ 旧辻川郵便局の解体保管工事進む

9/22

10/2

11/13

当面の予定

1月8日（日）11時頃～
合格祈願祭　辻川区主催）
1月22日（日）13時30分～
平成29年度辻川区総会
1月28日（土）19時30分～
新隣保長会議

祭礼行事のお知らせ

宮当番「十六隣保」より

◆1月1日～3日
正月祭り　鈴の森各社・高藤稲荷）

◆1月8日（日）10時
冬えびす　恵美酒神社）
一戸あたり200円の賽銭をお願いします。

◆1月14日（土）15時
とんど　鈴の森・高藤稲荷神社）

事業報告

◆9月17日（土）
隣保長・各種団体役員会議

① 秋祭り実行委員会構成・運行予定等説明
② 協議員選出方法に関する臨時総会の議案説明
③ 来年度事業計画立案への隣保・各種団体からの要望は10月20日締切で提出を
④ ゴミ出しルール違反の続く公民館横ゴミステーション防犯カメラ設置
⑤ 今年度自律(立)のまちづくり交付金制度対象事業の『ぶらり辻川界隈』案内

◆9月25日（日）**道普請**
秋祭りに向けての区民総出の街路大掃除。先立っての18日には老人会の皆さんによる鈴の森神社拝殿・境内・参道の掃除が、22日には消防OB会によって境内やその周辺のせん定と下刈が、共に小雨の中行われ、祭りの下準備が整った。

第5回シルバーフェスティバル
9月25日、文殊荘で総勢61名が昼食とカラオケ・舞踊を楽しまれた。この行事は平成22年から区としての敬老の日の催しがなくなったこともあり、老人会独自の取り組みとして平成24年から行われています。

◆10月8日（土）・9日（日）
秋祭り
台風16号接近により例年より1週間遅れで「じで飾り」が辻に立った。祭り当日も宵宮宮入前と夕方に小雨に降られ、夜半過ぎからの本降りにも心配させられたが、本宮蔵出前には上がり、当初の雨予報を裏切る絶好の祭り日和となった。これも青年団を始めとする祭りにかける熱き思いと屋台蔵のてるてる坊主のお蔭か。

さて、今年も辻川区が一体となった祭りができた。木方の陣頭指揮のもと棒端・青年団が結束して祭りにあたった結果ではあるが、併せて、子ども会や消防OB会等実行委員会の皆さんの献身的な支えに負うところも大きかった。今年も宵宮・本宮ともに時間厳守の蔵入れは見事であった。また、準備段階での屋台蔵周辺からの苦情もなかったとのこと。青年団の意識向上と周辺住居の皆さんのご厚情の賜物であろう。

9 日 17:50～18:30 本宮宮出

とはいえ、課題も見えた。①関係役員への青竹の事前配付が不徹底であったこと。②鈴の森神社や熊野神社での屋台奉納時に整列・拝礼すべき「青竹」があまりにも少ないこと。本棒の長さ分の人数はほしい。次年度は打ち合わせの際に青竹を配付し、宮入参加をお願いしたい。③屋台練りの上手い南田原の各地区は足の運びにリズムと統一性がある。最後の旧道での練りの前に少し練習したが、来年は「肩合わせ」で「エーエンヤー」に合わせた足の運び方と肩の替え方をさらに練習する必要があるように思う。

なお、10月18日、サンTVで熊野神社秋祭り（本宮）が放映された。神事としての岩尾神社への神輿渡御は、明治6年に熊野神社が郷社に列せられて以後行われている（神崎郡誌）そうだ。

9 日 11:00～11:30 岩尾神社

❤10月15日（土）
辻川山公園の清掃協力
2ブロックを中心に辻川から30名弱の参加。ご苦労様。

◆10月23日（日）
臨時総会
協議員の選出方法について、従来の区全体から選ぶ「大選挙区制」と、5つのブロックから2名ずつ選ぶ「小選挙区ブロック制」の2案を審議した。58名の出席者による投票の結果、「大選挙区制」22票、「ブロック制」35票、無効1票になり、平成29年度から「ブロック制」による選出に決定した（裏面に予定）。今後は規約の中にブロックの位置づけを定義し、新年度総会に提案することになる。区の運営を担う協議員の選出方法はここ10年来の懸案事項であったが、区民の関心の低さが気になった。

協議員選出に向けての予定

①12／3…ブロック別選挙人名簿の点検を当該隣保長に依頼　②12／15…協議員選挙・総会・区長選出の案内を隣保回覧　③1／8…投票用紙配付　④1／22午前…ブロック別に投票（被選挙人は所属ブロック内に限る）

慶芳上人廟

鈴の森神社

◆11月6日(日) ぶらり辻川界隈

風の強い時おり時雨（しぐれ）に遭うあいにくの天気であったが、総勢140名が秋の辻川を楽しんだ。地域のお宝再発見と新旧住民 老若男女の交流を目的に、参加者が8班に分かれ、西は駒ヶ岩から東は慶芳上人廟までの3㎞のコースを、ガイドブックを片手に、おしゃべりしながら、案内係の話を聞きながら歩いた。途中、古宮では火起こし体験、鈴の森神社では○×クイズ、ゴール後のビンゴゲームも面白かった。北野のコジイ林では 昔はこの椎（しい）の実を炒って食べた。生でも美味しい」と聞き、思わず白い実を口に入れた。ほんのり甘かった。新発見がいっぱいの秋の一日になった。65名のスタッフの皆さんに感謝。

おにぎり作り

火起こし

協議員としての任期を終えて

鈴木健文　皆さんのご協力とご理解のもと、私なりに精一杯頑張ってまいりましたが、私事にて今後は一区民として辻川区の発展と飛躍を応援したいと思います。長い間、有難うございました。

前田亮平　長く感じた2年間でした。辻川区の皆様には温かく見守って頂き感謝感謝です。お世話になりました。

植田弘造　2期4年、協議員の活動を通じて村の仕事の大切さと共に、皆様の協力で辻川が動いていると感じました。新しい方法で選ばれる新協議員の方への協力をお願い致しまして終わりたいと思います。

川端一郎　永年懸案だった玉垣改修に参画し、完成。他は風のようだった。現規約の全面改正を始め、できない理由を直ぐ考えるより懸案・課題をポチで、なく 貫剣協議」し次世代に先送りしない運営を望みます。

井上良宣　この2年間、自治会活動にご協力いただきありがとうございました。夏の「民俗学のタベ」では大変盛り上がり、うれしく思います。今後ともよろしくお願いします。

山下美紀　思いもよらぬ役を引き受けることとなりましたが、皆様のご協力のもと微力ながら2年間務めることが出来、感謝しています。これからは若い力で辻川区を支えていただきたく思います。

鈴木智久　在任期間中、何もできず他役員の皆様にはたいへんご迷惑をおかけしました。益々の辻川区ご発展を祈念しております。ありがとうございました。

鈴木和満　協議員の2年間、気持ちだけ焦り、何も出来ないことがよく分かりました。何よりも、隣近所が声を掛け合い仲良く助け合い、地域コミュニティを豊かにすることが求められていると感じました。有難うございました。

内藤 至　思い起こせば2年前の初総会で、2票で協議員に選ばれ、なんで俺が また2票だけで という気持ちで当初は活動していました。仕事と区の行事の両立は大変でしたが、とても好い経験をすることができました。

田﨑正和　元より広報紙づくりが好きで続けることができました。反省は住民の声が盛り込めなかったこと。十年間、機会を与えて頂きありがとうございました。

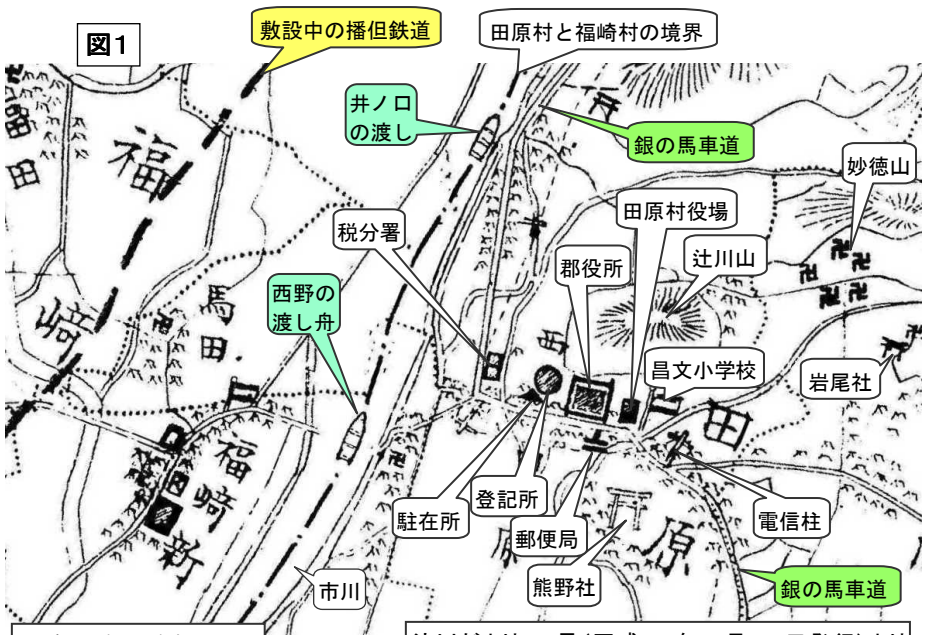
江戸時代後期の辻川と大庄屋三木家（第三回）

〈高瀬舟〉 前号からの続き

川岸から駒ヶ岩まで伸びた石組み（写真1）の南側（下流側）には高瀬舟の船着場があり、明治中期まで使われていたようだ。この港は湛保（注1）と呼ばれ、また、湛保の周辺地は「浜倉」（注2）と呼ばれ、積荷の保管倉庫が建っていたようだ。

高瀬舟が姿を消したのは、明治9年完成の 銀の馬車道」と明治28年開通の播但鉄道（図1）により、物資運搬の主役が馬車・荷車や鉄道に変わったことによるものだろう。

なお、高瀬舟の運行は秋の収穫後から翌年の春までの半年であった。春から秋にかけては米作りのため市川には取水用の堰が設けられたためである。また、川を遡るときは両岸から牛か人が舟を引いて上ることになる。



［図の解説］ 神崎郡役所は明治19年に神東・神西郡役所として建てられ、明治29年に神崎郡役所と改称している。

JR播但線は「播但鉄道」として明治25年に福崎まで開通し、明治28年には生野―飾磨間が開通した。

馬車や荷車による物流と行政機構の拠点であった辻川と、鉄道により発展する福崎駅前をつなぐ神崎橋が架設されたのは明治30年であった。

（注1）たんぼ…福渡七郎氏（明治40（↑907）年生まれ）の回想 第四回辻川界隈展パンフへの寄稿「辻川の昔 ―ふるさと80年―」）には、大正期前半の話として、「仁坂への三叉路の南側に米屋があり、その）米屋の南に久蔵さんという80歳位の頑丈な老人が住んで居られた。久蔵さんは加納屋福渡藤兵衛さん（↑860亡）や2代目の新次郎さん（↑886亡）を知っている唯一の人であった。久蔵さんは加納屋の船の船頭をしておられ、駒ヶ岩のタンポ（港）から姫路までの船路の様子を面白く聞かせてくれ、辻川の先祖の夢を見る思いをした。」と紹介されている。

昨年度「辻川歴史研究会」の要望により、県の河川敷整備事業に駒ヶ岩の石組み（護岸石垣）掘り出しが組み込まれ、今年3月6日の辻川区の放水訓練の際に併せてその洗い出しが行われた。百数十年ぶりに部分的に姿を現した湛保だが、今後の事業継続と歴史的遺産としての保存が望まれる。

（注2）はまくら…吉田区（元辻川在住）の福永孝氏（福永佛壇店）のご教示による。

11/6 ぶらり辻川界隈で訪ねる

写真1
姿を現した駒ヶ岩の湛保

〈渡し舟〉

市川筋を上り下りする高瀬舟とは別に、市川を横断する渡し舟が西野村―福崎新村間と井ノ口村―山崎村間にあった（図1）。

渡しが村境界にあったため、その利権にからむ争いが頻繁に起こり、辻川組と山崎組内の争論・訴訟の調停役でもあった大庄屋三木家には訴えが多かったようである。

西野の渡しは神崎橋（注3）ができた明治30年に、井ノ口の渡しは月見橋（注4）ができた昭和22年頃になくなったか。

（注3）明治30年に架設された神崎橋は木橋であった。その後、昭和6（↑931）年にゲルバー式鉄橋に架け替えられた。

（注4）昭和22年架設の月見橋は吊り橋であった（昭和31年に改修）。現在の橋は昭和41（↑966）年に完成した。

加古川流域ネットワーク・東播磨流域文化協議会ホームページより引用
写真2
当時加古川を上下した高瀬舟

〈参考・引用文献は41号で紹介〉

編集後記

1年に4回発行で40号までたどり着きました。年度替わりの41号まで担当します。感謝（田﨑）